宮城県文化財調査報告書第237集

入　大　遺　跡

平成27年3月

宮城県教育委員会

宮城県文化財調査報告書第237集　入大遺跡　平成二十七年三月　宮城県教育委員会

入　大　遺　跡

序　　文

平成23年３月11日に発生した東日本大震災から４年がたち、私たちは震災からの復興に取り組んでおります。このような災害は過去に何度も起こっていますが、文献資料や埋蔵文化財の発掘調査から、その度に災害を乗り越えて復興を遂げた先人たちのたくましい姿が明らかになっています。

私たちの地域の復興には、安全で災害に強いまちづくり、産業の振興、人々の暮らしの再生に加え、そうした先人たちが苦難を克服し築き上げてきた文化を再認識し、継承していくことも不可欠です。

地域において守り伝えられてきた文化財は、現代に生きる私たちと過去や未来に生きる人々、そして地域で共に生きる人々を結びつけるものであります。文化財を保存し活用する取り組みにより、身近な地域の個性豊かな風土や歴史的な価値を再発見し、人々と地域がより密接に結びついた豊かで魅力ある社会が形成されていくものと期待されます。

本書は、平成26年度に県道越河角田線の改良工事に先立って実施した伊具郡丸森町入大遺跡の発掘調査報告書です。本書が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対し、厚く御礼申し上げる次第です。

平成27年３月

宮城県教育委員会
教育長　髙　橋　　仁

例　　言

1．本書は、県道越河角田線改良工事にともなう発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当し、丸森町教育委員会が協力した。

3．発掘調査に際しては、以下の機関からご協力を賜った。

　丸森町立耕野小学校　丸森町耕野まちづくりセンター　宮城県大河原土木事務所

4．本書の第１図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000の地形図「白石南部」･「白石東南部」･「桑折」･「舟生」を複製して利用した。

5．本書における土色の記述については、『新版標準土色帖　2005年版』（小山・竹原2005）を使用した。

6．測量原点の座標値は、世界測地系にもとづく平面直角座標第X系による。なお、方位は座標北を表している。

7．本書の作成には、調査を担当した各調査員の協議を経て、鈴木啓司が執筆・編集を行った。

8．本書で使用した遺構略号は、以下の通りである。

　SK：土坑　　P：ピット　　SX：遺物包含層

9．遺構・遺物の図の縮尺は原則として以下のとおりである。なお、縮尺を変更した場合は、図に変更したスケールを載せている。

　遺構・遺物包含層：配置図（1/200）　　遺構平面図・断面図（1/60）

　遺物：土器（1/3）　　土製品・石器（2/3）

10. 遺物の写真撮影は、（株）アートプロフィールに委託した。

11. 遺物写真の縮尺は、実測図と同様である。

12. 調査の記録や整理に関する資料および出土品については、宮城県教育委員会が一括して保管している。

調　査　要　項

遺 跡 名：**入大遺跡**（宮城県遺跡地名表記載番号：10056）　　遺跡略号：YD

所 在 地：宮城県伊具郡丸森町耕野字入大

調査原因：県道越河角田線改良工事

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査協力：丸森町教育委員会

調査期間：確 認 調 査　平成26年３月11日～３月13日

　　本発掘調査　平成26年７月14日～８月８日

調査面積：確 認 調 査　270㎡（調査対象面積　1323㎡）

　　本発掘調査　159㎡（調査対象面積　162㎡）

調 査 員：確 認 調 査　村田晃一、鈴木啓司（宮城県教育庁文化財保護課）

　　本発掘調査　高橋洋彰、鈴木啓司（宮城県教育庁文化財保護課）

　　加藤遼（丸森町教育委員会）

作業風景（本発掘調査時）

目　　次

Ⅰ　遺跡の概要…… 1
　1　遺跡の位置と周辺の環境…… 1
　2　過去の調査成果…… 1

Ⅱ　調査に至る経緯と調査の方法…… 1
　1　調査に至る経緯…… 1
　2　調査の方法と経過…… 3

Ⅲ　基本層序…… 3

Ⅳ　発見された遺構と遺物…… 5
　1　土坑・ピット…… 5
　2　遺物包含層…… 5

Ⅴ　総括…… 12
　1　遺構について…… 12
　2　出土遺物について…… 13
　　(1) 土器…… 13
　　(2) 土器の年代…… 13
　　(3) 土製品…… 14
　　(4) 石器…… 14
　3　まとめ…… 14

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

図　目　次

第１図　入大遺跡の位置と周辺の遺跡…… 2
第２図　調査区の位置…… 4
第３図　遺構配置図…… 6
第４図　本発掘調査区西壁・SX01遺物包含層断面図 …… 7
第５図　SK02土坑平面図・断面図・出土遺物 …… 7
第６図　SX01遺物包含層出土遺物（1） …… 8
第７図　SX01遺物包含層出土遺物（2） …… 9
第８図　SX01遺物包含層出土遺物（3） …… 10
第９図　遺物包含層の分布…… 12

図　版　目　次

図版１　調査前風景、SX01遺物包含層検出状況、完掘状況 …… 17
図版２　SX01遺物包含層検出状況 …… 18
図版３　本発掘調査区西壁、SX01遺物包含層東西・南北断面 …… 19
図版４　SX01遺物包含層遺物出土状況、SK02土坑、P1 …… 20
図版５　SK02土坑、SX01遺物包含層出土土器 …… 21
図版６　SK02土坑、SX01遺物包含層出土土器・土製品・石器 …… 22

Ⅰ　遺跡の概要

１　遺跡の位置と周辺の環境

入大遺跡は、宮城県伊具郡丸森町耕野字入大に所在する。耕野地区は、阿武隈山地を構成する標高200～300m程の山々の谷部に集落が形成されており、丸森町の中心部から西へ約12㎞に位置し、福島県と境を接する。遺跡は、阿武隈山地から派生する丘陵の麓に立地しており、東へ約30mに阿武隈川支流が北西から南東方向へ流れている。さらに東へ約1.8㎞の位置で阿武隈川に合流する。

入大遺跡の周辺には、丘陵斜面や麓に縄文時代の遺跡が多く分布している。一方で、弥生時代以降の遺跡は極端に少なく、古代の散布地や中世の館跡が数か所にあるのみである。ここでは、縄文時代の遺跡について概観する（丸森町教委1979）。

早期の遺跡としては、高原遺跡（17）があり、素山式土器が出土している。前期では、新桑代遺跡（18）があり、大木１式土器、磨製石斧、打製石斧などが出土している。

中期になると遺跡が増加し、立石遺跡（6）、堂ノ前遺跡（7）、大場平遺跡（9）、門の内遺跡（16）、赤土遺跡（24）、赤土B遺跡（25）などがあり、おおむね大木９～10式の時期が想定される。

後期では、滑津遺跡（8）、川前遺跡（20）、大巻南遺跡（22）、茗茄遺跡（26）などがあり、この内、滑津遺跡からは開墾の際に石組炉が発見されたと伝わっている。

晩期では、砂田遺跡（3）、沼ノ上遺跡（19）からは大洞A・A´式期の土器や土偶、磨製石斧、石錐などが出土している。

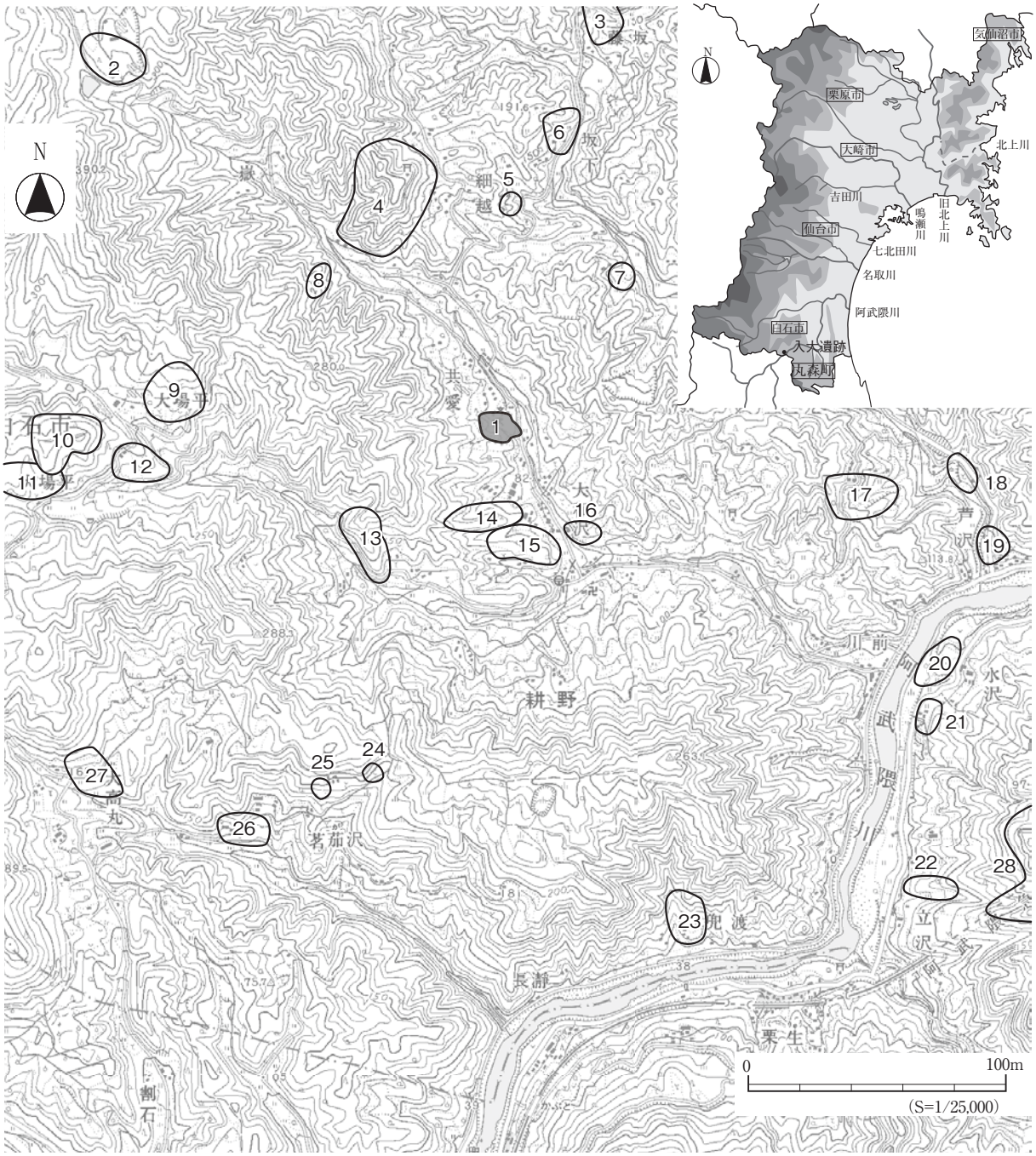
２　過去の調査成果

入大遺跡の存在が知られるようになったのは、大正時代において耕野小学校建設の際に、大量の土器・石器が出土したことによる（伊具郡教育会1926）。1953～1955（昭和28～30）年には耕野地区で分布調査が行われて、縄文時代後期の遺跡として認識されるに至った（斎藤1956）。1987（昭和62）年には耕野小学校の校舎新築に先立って、丸森町教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が協力して発掘調査を実施した。その結果、縄文時代後期中葉の宝ヶ峯式期の土器埋設遺構、土坑、遺物包含層などを確認している（丸森町教委1989）。

Ⅱ　調査に至る経緯と調査の方法

１　調査に至る経緯

丸森町耕野地区では、県道越河角田線（以下、県道）の改良工事が計画されており、その箇所が入大遺跡に隣接することから、当課・丸森町教育委員会・宮城県大河原土木事務所の三者による協議を行い、平成26年３月に確認調査を実施した。その結果、遺物包含層を確認したため、遺跡の範囲を東へ拡大することが必要となった。このことを受け、再度三者による協議が持たれ、翌年度に本発掘調査を行うこととなった。



No.	遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	入大遺跡	丘陵麓	散布地	縄文後	15	小坂館跡	丘陵	城　館	中世
2	岳遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	16	門の内遺跡	丘陵麓	散布地	縄文中～晩
3	砂田遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文晩	17	高原遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文早・中・晩・古代
4	北山館跡	丘陵	城　館	中世	18	新桑代遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前・中
5	クキ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	19	沼ノ上遺跡	丘陵麓	散布地	縄文晩
6	立石遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中・古代	20	川前遺跡	段丘	散布地	縄文中・後
7	堂ノ前遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中	21	袖五郎遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
8	滑津遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文後	22	大巻南遺跡	丘陵	散布地	縄文後・晩
9	大場平遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中	23	川向遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
10	小屋館跡	丘陵	城　館	中世	24	赤土遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中
11	農場A遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代	25	赤土B遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中
12	農場B遺跡	丘陵麓	散布地	縄文	26	茗荷遺跡	段丘	散布地	縄文後・晩
13	入山下遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	27	高丸遺跡	丘陵麓	散布地	縄文
14	小屋下館跡	丘陵	城　館	中世	28	赤柴館跡	丘陵	城　館	中世

第１図　入大遺跡の位置と周辺の遺跡

２　調査の方法と経過

平成26年３月11日～13日に実施した確認調査では、対象地に北側から１～７トレンチを設定し、６トレンチで遺物包含層を確認した。2014年７月14日～８月25日に実施した本発掘調査では、６トレンチを拡張し、本発掘調査区とした。現道脇の調査であり、遺構検出面が現地表下1.5～2.0mであることから、現道の崩落を予防するために、調査区を東西に二分し、東側から調査を行った。その後、東側の調査区を一度埋め戻し、シーティング設置による建込簡易土留め後に、改めて西側の調査区の遺物包含層を精査した。

遺構の平面図作成に際しては、県道沿いに設置された３・４級基準点を測量原点とし、電子平板による測量を行った。測量基準点の座標は以下の通りである。

基２：X＝－230968.357　Y＝－16459.933　Z＝86.984

T.４：X＝－230929.298　Y＝－16479.351　Z＝89.626

また、断面図は縮尺1/20で作成した。写真撮影にはデジタル一眼レフカメラを用いた。

Ⅲ　基本層序

調査区は丘陵斜面に位置しており、西隣を県道が南北方向に走っている。この県道を建設する際に斜面を大きく削っていることから、遺物包含層と地山はわずかに残されている程度であった。調査区内の層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　：　表土層。厚さは約0.2mである。

第Ⅱ層　：　道路建設にともなう盛土層。拳大～人頭大の礫を多く含み、厚さは1.5m～２m以上である。

第Ⅲ層　：　遺物包含層。a・b・c・dの４層に分けられる。主に黒褐色を呈し、シルト～粘土質シルトである。本発掘調査区（６トレンチ）のみで確認した。

第Ⅳ層　：　遺物包含層の地山層（10YR5/4　にぶい黄褐　粘土質シルト）。無遺物層である。本発掘調査区（６トレンチ）のみで確認した。

Y=−16550.000
Y=−16500.000
Y=−16450.000
Y=−16400.000
N
X=−230850.000
X=−230900.000
X=−230950.000
X=−231000.000
X=−231050.000
文
1T
2T
3T
4T
5T
6T
7T
入大遺跡の範囲
計画範囲
本発掘調査範囲
確認調査範囲
昭和62年度調査範囲
0
50m
(S=1/1000)

第２図　調査区の位置

Ⅳ　発見された遺構と遺物

今回の調査で発見された遺構には、土坑（SK02）、ピット（P1・2）、遺物包含層（SX01）がある（第３図）。これらの遺構は全て本発掘調査区（６トレンチ）で検出したものであり、他のトレンチでは遺構・遺物は発見されなかった。以下に遺構ごとの説明を行う。

１　土坑・ピット

SK02土坑（第３・４・５図、写真図版４・５・６）

［位　　置］　本調査区中央

［検 出 面］　Ⅲc層上面

［規　　模］　長径76.0㎝以上×短径58.0㎝の円形を呈し、深さが16.0㎝ある。底面はほぼ平坦である。

［重　　複］　SX01遺物包含層Ⅲb層より古く、Ⅲc層より新しい。

［堆 積 土］　１層確認した。自然堆積土で､炭化物を少量含む灰黄褐色を呈する粘土質シルトである。

［出土遺物］　縄文土器鉢（第５図１）、石鏃（第５図２）が出土した。

P1（第３・４図、写真図版４）

［位　　置］　本調査区中央

［検 出 面］　Ⅲc層上面

［規　　模］　長径20.0㎝×短径15.0㎝の楕円形を呈し、深さは10.0㎝である。

［重　　複］　SX01遺物包含層Ⅲb層より古く、Ⅲc層より新しい。

［堆 積 土］　１層確認した。自然堆積土で、灰黄褐色を呈するシルトである。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

P2（第４図、写真図版３）

［位　　置］　本調査区中央

［検 出 面］　Ⅲb層上面

［規　　模］　本調査区西壁断面のみで確認した。長径24.0㎝以上で、深さは27.0㎝である。

［重　　複］　SX01遺物包含層Ⅲa層より古く、Ⅲb層より新しい。

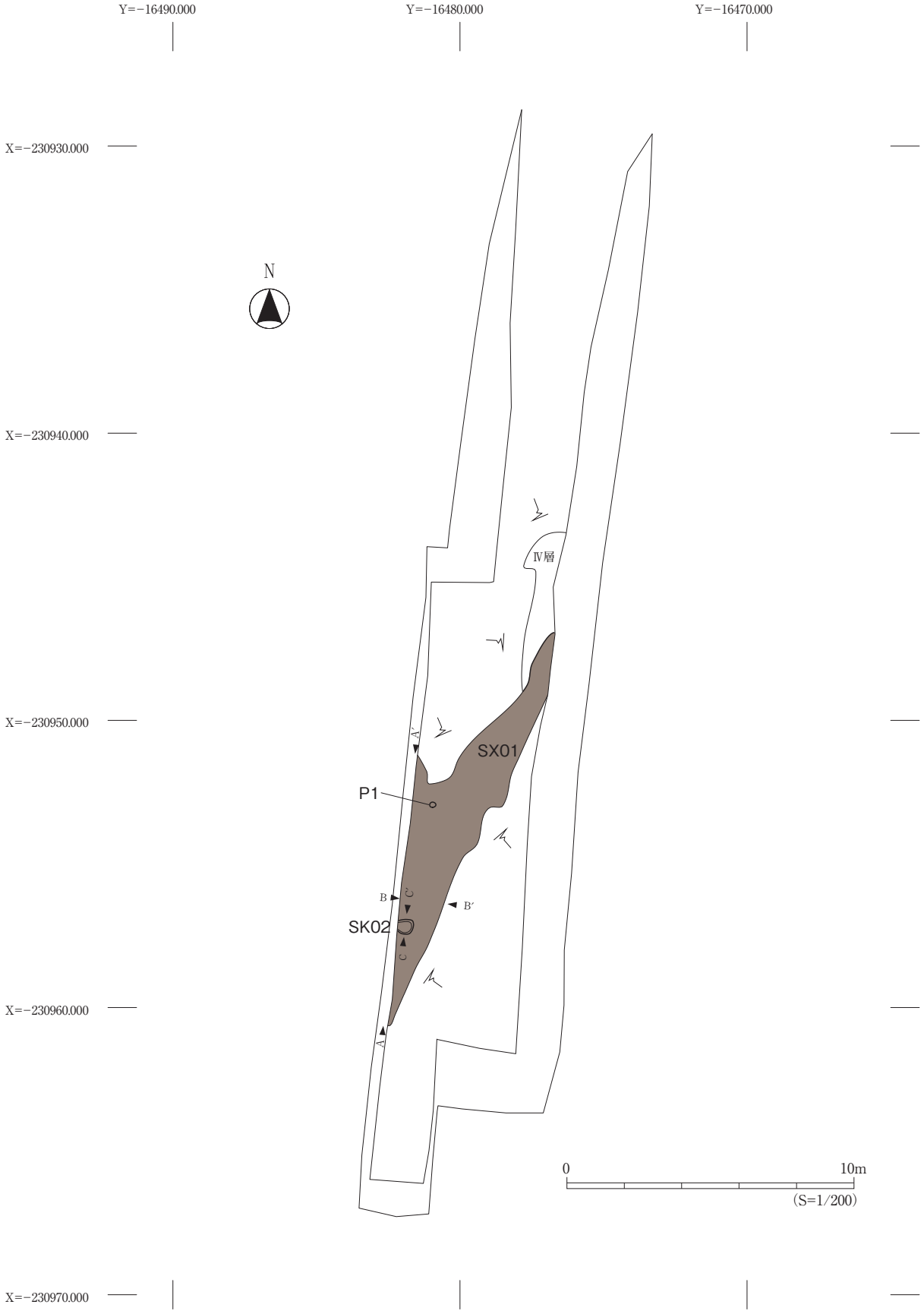
［堆 積 土］　１層確認した。自然堆積土で、地山（Ⅳ層）由来とみられるにぶい黄褐色を呈するシルトである。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

２　遺物包含層

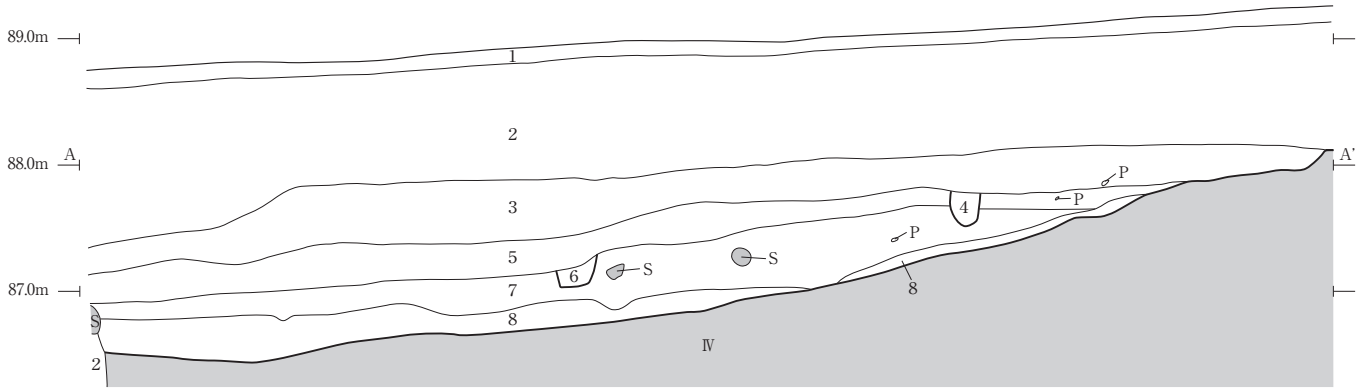
SX01遺物包含層（第３・４・６・７・８図、写真図版１・２・３・４・５・６）

［位　　置］　Ⅰ区中央～南側


Y=−16490.000
Y=−16480.000
Y=−16470.000
X=−230930.000
X=−230940.000
X=−230950.000
X=−230960.000
X=−230970.000
N
Ⅳ層
SX01
P1
SK02
A
A′
B
B′
C
C′
0
10m
(S=1/200)

第３図　遺構配置図

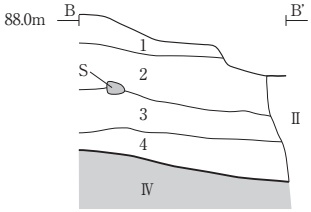
本発掘調査区西壁



遺構名	No.	土色		土性	基本層位	備考
	1				Ⅰ	表土
	2				Ⅱ	盛土
SX01	3	10YR4/2	灰黄褐	シルト	Ⅲa	炭化物、地山ブロック、焼土を多く含む
P2	4	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト		炭化物を多く含む
SX01	5	10YR3/1	黒褐	粘土質シルト	Ⅲb	炭化物、地山粒を少量含む
SK02	6	10YR4/2	灰黄褐	粘土質シルト		炭化物を少量含む
SX01	7	10YR3/2	黒褐	粘土質シルト	Ⅲc	炭化物、地山ブロックを含む
	8	10YR3/3	暗褐	粘土質シルト	Ⅲd	地山ブロックを多く含む

0　2m
(S=1/60)

SX01 遺物包含層東西断面

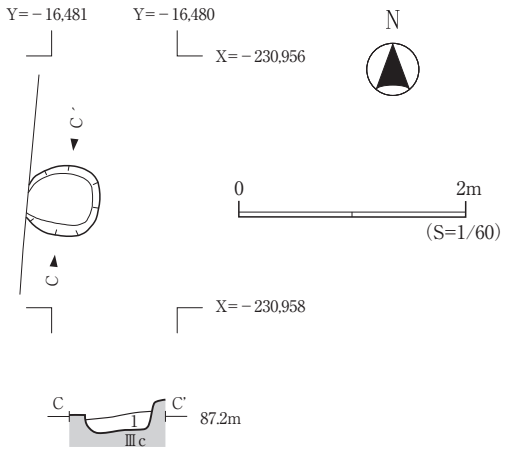


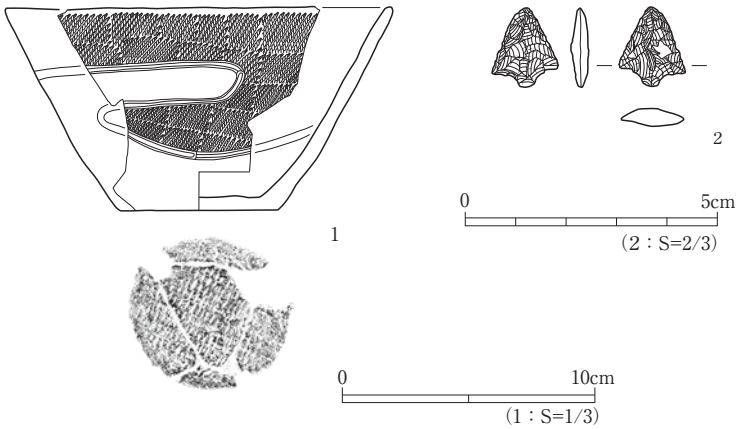
遺構名	No.	土色		土性	基本層位	備考
SX01	1	10YR4/2	灰黄褐	シルト	Ⅲa	炭化物、地山ブロックを多く含む
	2	10YR3/1	黒褐	粘土質シルト	Ⅲb	炭化物、地山粒を少量含む
	3	10YR3/2	黒褐	粘土質シルト	Ⅲc	炭化物、地山ブロックを含む
	4	10YR3/3	暗褐	粘土質シルト	Ⅲd	地山ブロックを多く含む

0　2m
(S=1/60)

第４図　本発掘調査区西壁・SX01遺物包含層断面図

SK02 土坑

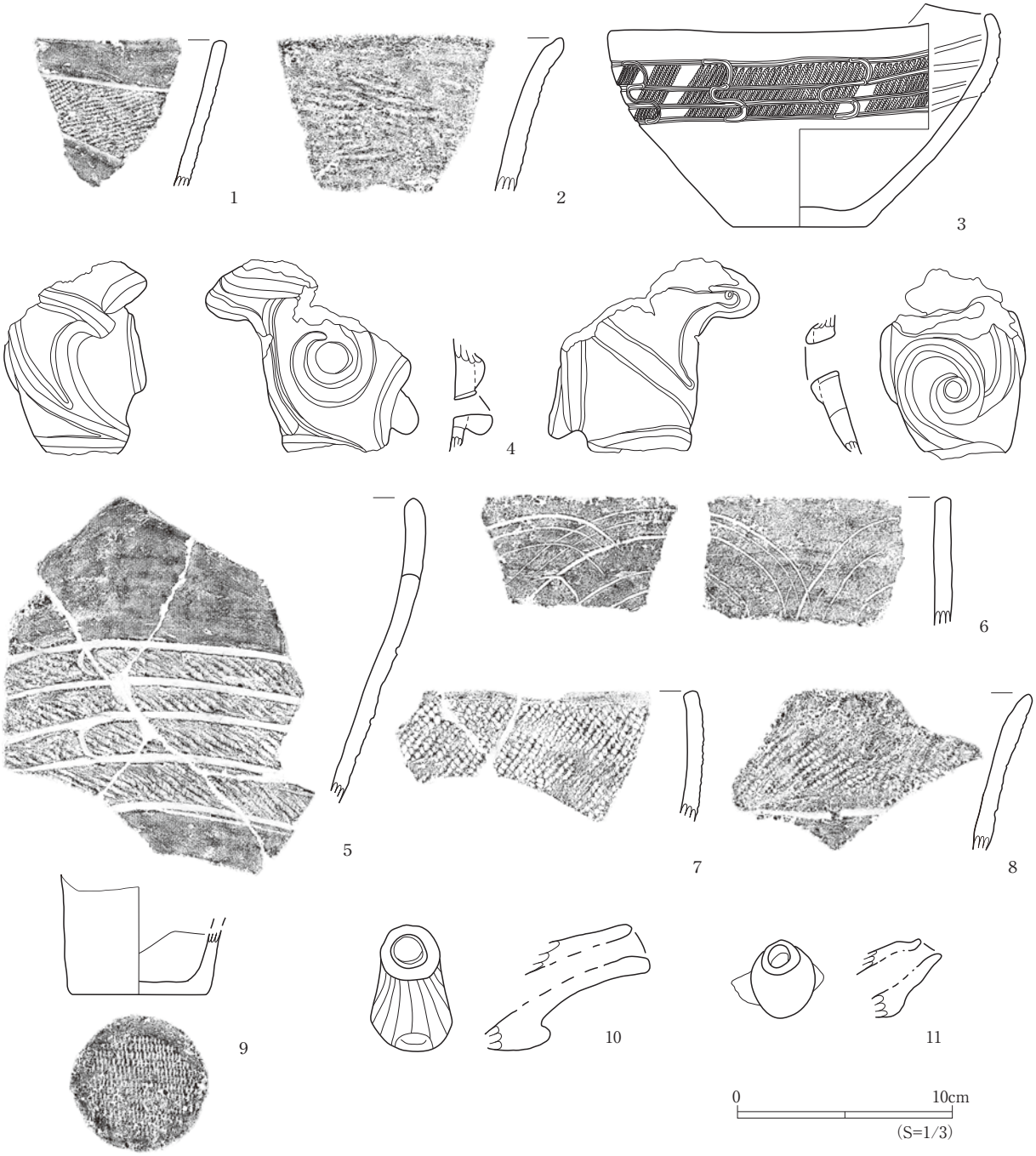




遺構名	No.	土色		土性	備考
SK02	1	10YR4/2	灰黄褐	粘土質シルト	炭化物を少量含む

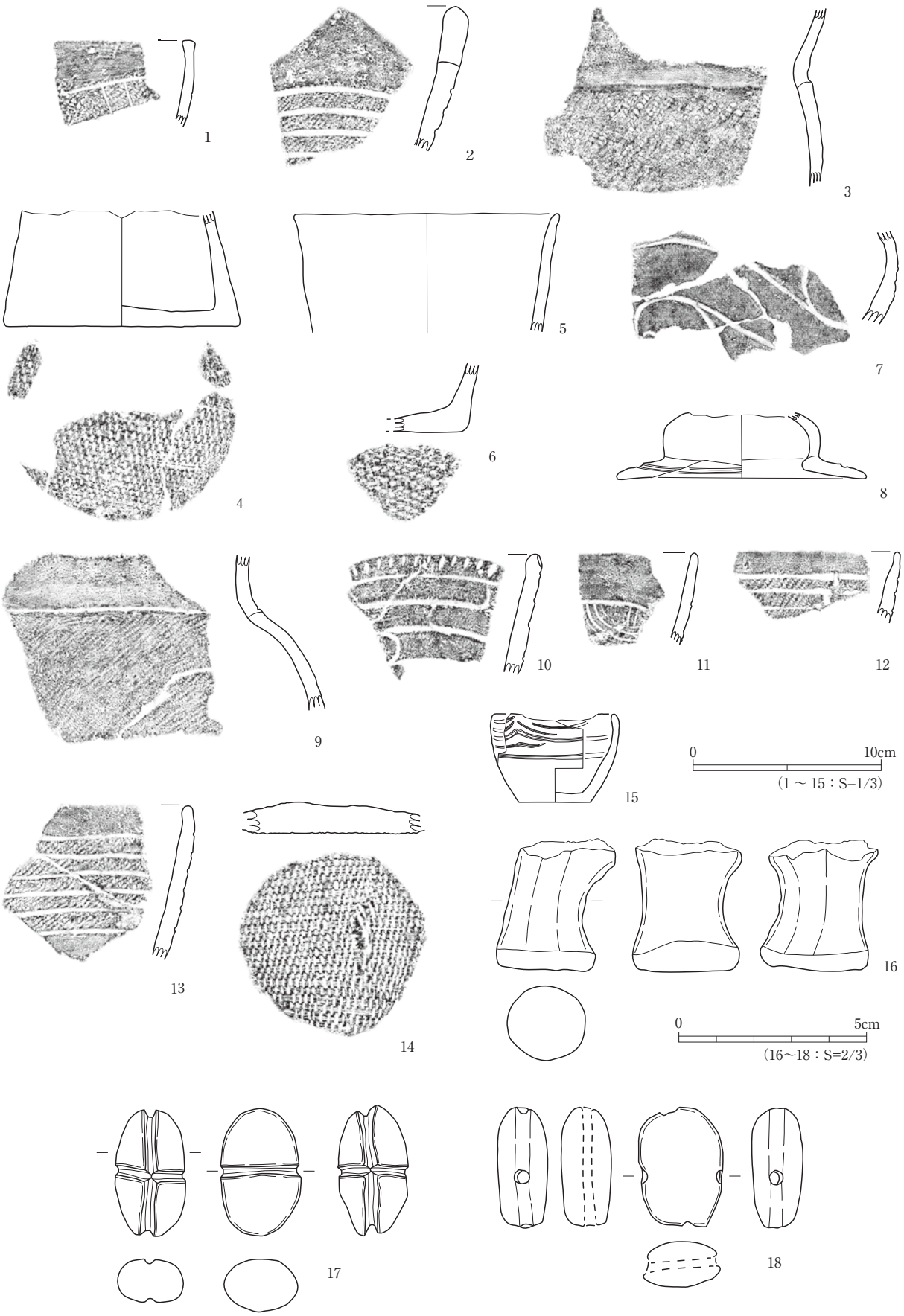
No.	器種	遺構／層	部位（石材）	特徴	図版	登録No.
1	鉢	SK02／堆	口縁～底部	区画沈線曲線文（磨り消し縄文）底：網代痕 縄文LR　口径：15.2cm　底径：6.2cm 器高：8.0cm	5－1	Po９
2	石鏃	SK02／堆	頁岩	有茎　長さ：1.6cm　幅：1.3cm　厚さ0.4cm 重量：1.3g	6－12	S5

第５図　SK02土坑平面図・断面図・出土遺物

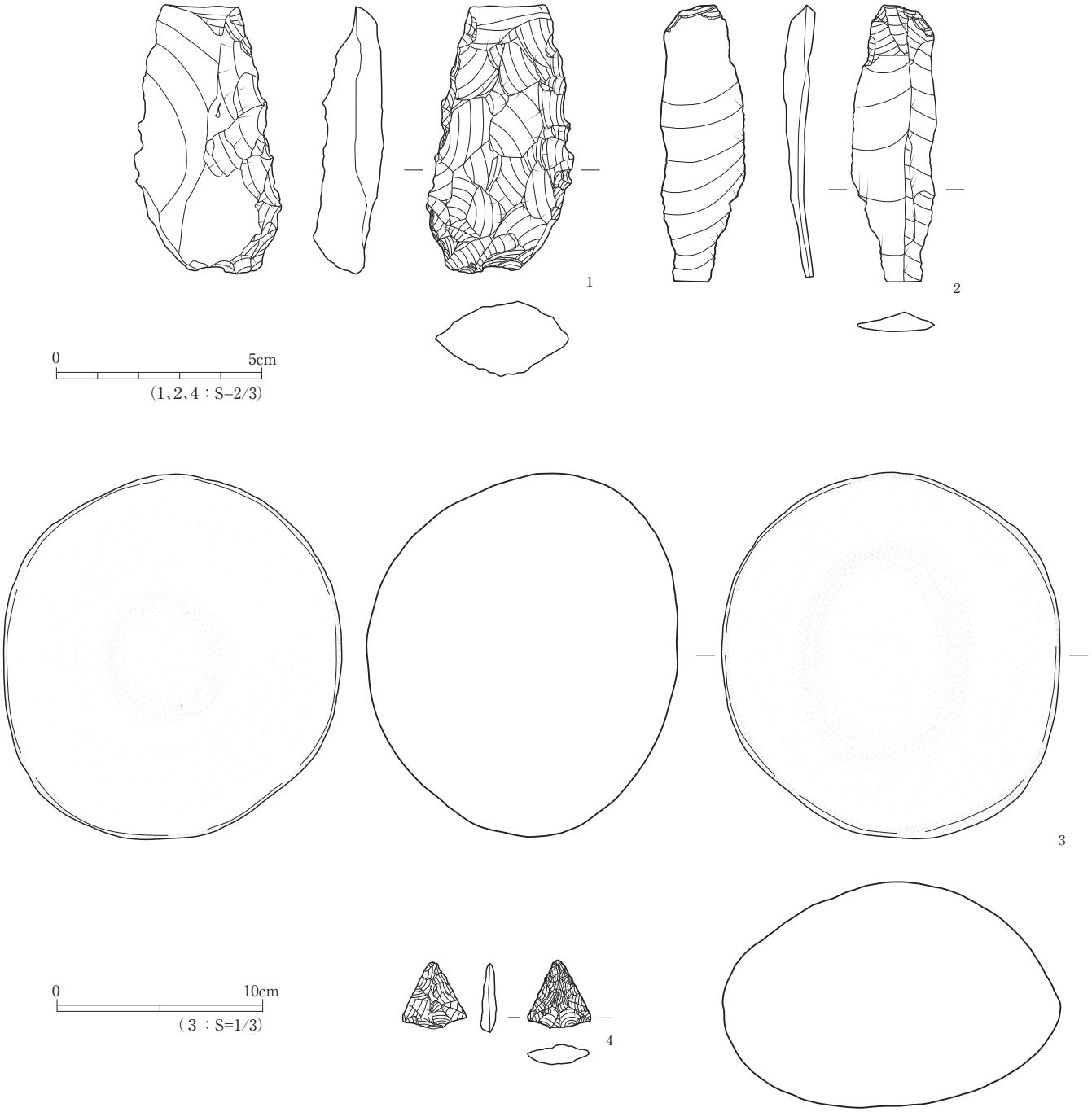


No.	器種	遺構／層	部位	特徴	写真図版	登録No.
1	深鉢	SX01／Ⅲd	口縁	横位沈線　区画沈線曲線文か　縄文LR	5－3	Po 8
2	深鉢	SX01／Ⅲd	口縁	口縁：やや受口状　縄文R　全体に摩滅気味	5－4	Po29
3	鉢	SX01／Ⅲd	口縁～底部	横位平行沈線→縦位蛇行沈線（磨り消し縄文）　縄文LR　口径17.8cm 底径：6.2cm器高：10.4cm	5－2	Po 1
4	深鉢	SX01／Ⅲc	突起	残存長：9cm　幅：9.7cm　貫通孔2つ　中空	5－5	Po23
5	深鉢	SX01／Ⅲc	口縁	口縁：波状　横位平行沈線→縦位弧状沈線（磨り消し縄文）　縄文R	5－11	Po24
6	深鉢	SX01／Ⅲc	口縁	櫛歯状沈線	5－6	Po20・21
7	深鉢	SX01／Ⅲc	口縁	縄文LR	5－7	Po 3
8	深鉢	SX01／Ⅲc	口縁	横位沈線　縄文LR	5－8	Po27
9	深鉢	SX01／Ⅲc	胴～底部	底：網代痕　底径：6.2cm	5－13	Po19
10	注口土器	SX01／Ⅲc	注口	残存長：8.2cm　外：ナデ	5－9	Po 2
11	注口土器	SX01／Ⅲc	注口	残存長：3.9cm	5－10	Po28

第６図　SX01遺物包含層出土遺物（1）



第７図　SX01遺物包含層出土遺物（2）



第８図　SX01遺物包含層出土遺物（３）

No.	器種	遺構／層	部位（石材）	特徴	写真図版	登録No.
7－1	深鉢	SX01／Ⅲb	口縁	刻線文　縄文LR	5－15	Po18
7－2	深鉢	SX01／Ⅲb	口縁	口縁：波状　横位平行沈線（磨り消し縄文）　縄文LR	5－14	Po11
7－3	深鉢	SX01／Ⅲb	口縁～胴	横位沈線　縄文LR	5－16	Po32
7－4	深鉢	SX01／Ⅲb	胴下部～底部	底：網代痕　内・外：摩滅　底径：12.4cm	5－17	Po22
7－5	深鉢	SX01／Ⅲb	口縁～底部	底：網代痕　内・外：摩滅　口径：14.0cm	5－18	Po25
7－6	深鉢	SX02／Ⅲb	底部	底：網代痕	5－19	Po17
7－7	浅鉢	SX01／Ⅲb	胴	区画沈線曲線文	5－20	Po14
7－8	台部	SX01／Ⅲb		横位沈線　底径：13.2cm	6－1	Po16
7－9	壺	SX01／Ⅲb	口縁～胴	横位沈線　縄文LR	6－2	Po13
7－10	深鉢	SX01／Ⅲa	口縁	刻目　横位平行沈線→縦位弧状沈線	6－5	Po6
7－11	深鉢	SX01／Ⅲa	口縁	横位沈線　櫛歯状沈線	6－6	Po7
7－12	深鉢	SX01／Ⅲa	口縁	刻目　横位平行沈線　縦位沈線（磨り消し縄文）　縄文LR	6－7	Po31
7－13	深鉢	SX01／Ⅲa	口縁	横位平行沈線（磨り消し縄文）　縄文LR	6－4	Po12
7－14	底部	SX01／Ⅲa		底：網代痕	6－3	Po4
7－15	袖珍土器　鉢	SX01／Ⅲ	口縁～底部	入組文　弧線文　口径：6.4cm　底径：3.8cm　器高：4.7cm	6－8	Po10
7－16	土偶	SX01／Ⅲc	脚部	底径：2.6cm　残存長：3.3cm　中実　外：ナデ	6－9	Po26
7－17	土錘	SX01／Ⅲa		全長：3.4cm　幅：2.1cm　厚さ：1.9cm　溝が長軸・短軸を全周	6－10	Po15
7－18	土錘	SX01／Ⅲ		全長：3.2cm　幅：2.2cm　厚さ：1.9cm　長軸・短軸に貫通孔あり	6－11	Po30
8－1	石箆	SX01／Ⅲc	珪質凝灰岩	長さ：6.4cm　幅：3.2cm　厚さ：1.8cm　重量：38.2g	6－15	S3
8－2	剥片	SX01／Ⅲc	珪質頁岩	長さ：6.6cm　幅：1.9cm　厚さ：0.6cm　重量：5.4g	6－14	S2
8－3	磨石	SX01／Ⅲc	安山岩	長さ：17.7cm　幅：16.5cm　厚さ：15.1cm　重量：3340.0g	6－16	S1
8－4	石鏃	SX01／Ⅲb	珪質頁岩	有茎　長さ：1.7cm　幅：1.5cm　厚さ：0.5cm　重量：1.4g	6－13	S4

［規　　模］　検出長8.0m、幅1.0～9.4mである。西側から東側へ緩く傾斜しており、北側と南側は大きく削平を受けている。

［重　　複］　Ⅲb層はP2より古く、Ⅲc層はP1・SK02より古い。

［堆 積 土］　４層確認した（Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・Ⅲd層）。主に黒褐色を呈するシルト・粘土質シルトである。下層（Ⅲc・d層）はⅣ層に由来する地山ブロックを含み、上層（Ⅲa・b層）は炭化物や焼土を含む。

［出土遺物］　Ⅲd層から縄文土器深鉢（第６図１・２）、鉢（第６図３）、Ⅲc層から縄文土器深鉢（第６図４・５・６・７・８・９）、注口土器（第６図10・11）、土偶脚部（第７図16）、石箆（第８図１）、磨石（第８図３）、剥片（第８図２）、Ⅲb層より深鉢（第７図１・２・３・４・５・６）、浅鉢（第７図７）、台部（第７図８）、壺（第７図９）、石鏃（第８図４）、Ⅲa層から深鉢（第７図10・11・12・13）、底部（第８図14）、土製品では土錘（第７図17）、そのほかにⅢ層から袖珍土器鉢（第７図15）、土錘（第７図18）が出土している。いずれも散漫とした出土状況である。

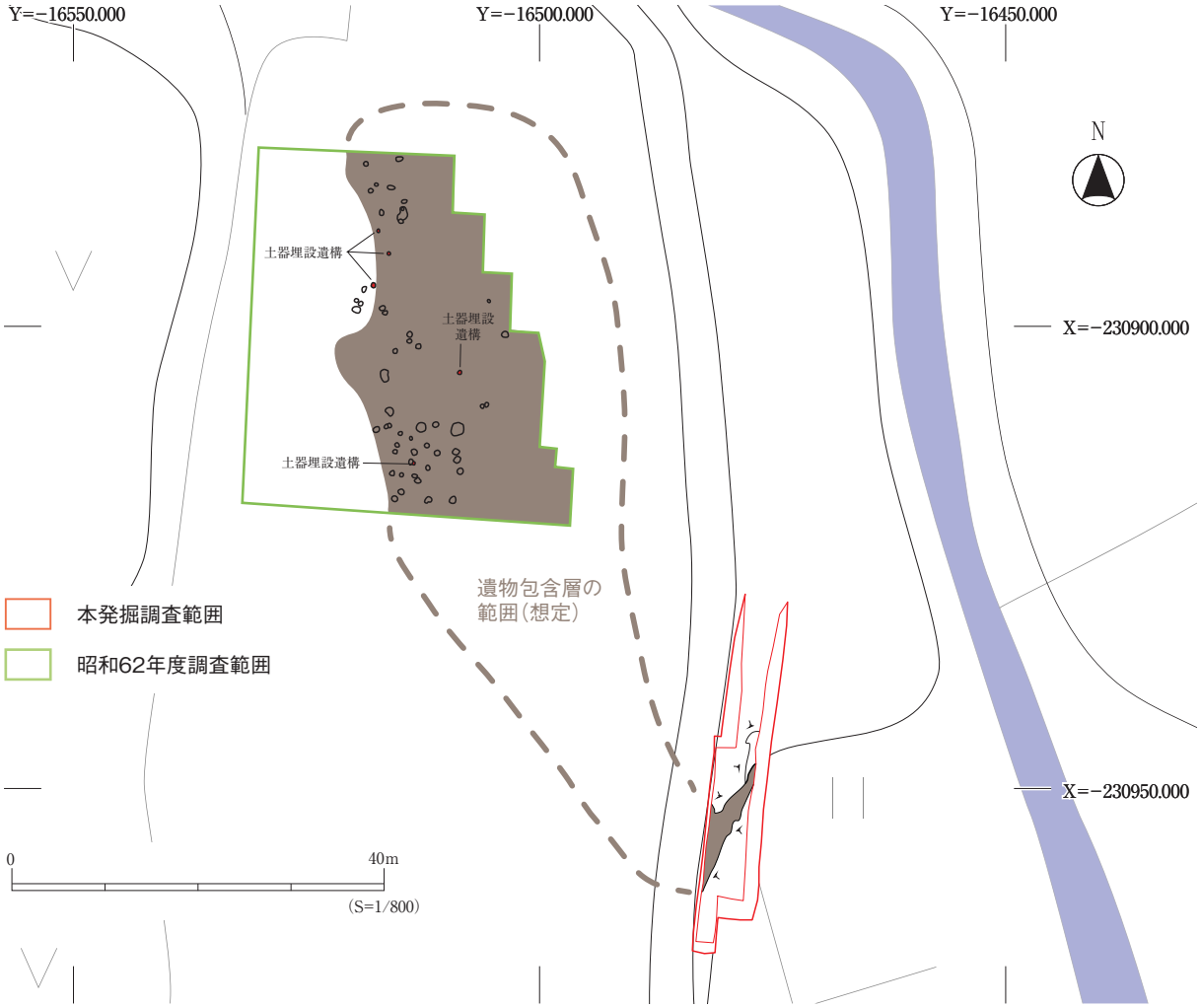
Ⅴ　総括

1　遺構について

遺物包含層SX01は、４層に分けられる（Ⅲa・b・c・d層）。各層から同一型式と考えられる縄文土器が出土しており、他型式の土器を含まない。

各層についてみると、Ⅲa層が含有物や色調の特徴から旧表土に相当し、一次堆積層は黒褐色を呈するⅢb層のみと考えられる。Ⅲc・d層は、地山ブロックを多く含むなどの特徴から西側の丘陵上からの流れ込みによって形成された２次堆積層とみられる。

また、小穴や土坑の存在からⅢb・c層上面に生活面が存在し、集落の居住域が拡大したとみられる。今回確認したSX01遺物包含層は、前回調査で確認した遺物包含層と一連のものであり（第９図）、東側の末端に位置するものと考えられる。



第９図　遺物包含層の分布

２　出土遺物について

土器は整理用コンテナで４箱程度出土しているが、大部分が小破片である。また、SX01各層の出土土器は、形態や文様の特徴から同一型式と考えられる。よって、ここでは分類を行わずに、個々の器形や文様などの特徴を述べ、その年代を検討する。また、土製品と石器についても説明する。

(1) 土器

器種には、深鉢・鉢・浅鉢・台部・壺・注口土器・袖珍土器がある。深鉢・鉢・浅鉢が出土量の大部分を占めており、他の器種の出土量は少ない。

［深鉢］

出土量が最も多いが、器形の全体が把握できるものはない。文様や縄文（地文）の有無から文様を持つもの、地文だけのもの、無文のものに分けられる。

文様を持つものには①横位沈線によって縄文帯と無文帯を区画するもの、②横位平行沈線を施したもの、③横位平行沈線に縦位弧状沈線を施したもの、④区画沈線曲線文を施したもの、⑤刻線文や櫛歯状沈線を施したものなどがある。①では、口縁部がわずかに外傾するもの（第６図８）と頸部でくびれ口縁部が外傾して開くもの（第７図３）がある。②では、口縁部が直立気味となり波状を呈するもの（第７図２）と口縁部が内傾するもの（第７図13）がある。③では、口縁部が内弯し波状を呈するもの（第６図５）、口縁部が外傾し刻目を有するもの（第７図10）がある。④では、口縁部が緩く外傾するもの（第６図１）がある。⑤では、刻線文が施され口縁部が内弯するもの（第７図１）、櫛歯状沈線が施され口縁部が直立するもの（第６図６）、口縁部が外傾するもの（第７図11）がある。

地文だけのものは、口縁が緩く外反するもの（第６図２）と内弯するもの（第６図７）がある。

無文のもの（第７図５）は、口縁部がわずかに外傾する。

［鉢］

器形の全体を把握できるものが２個体ある。区画沈線曲線文が施され、胴部の立ち上がりから口縁部まで直線的に外傾するもの（第５図１）、横位平行沈線と縦位蛇行沈線が施され、胴部が外傾して立ち上がり口縁部が内弯するもの（第６図３）がある。

［浅鉢］

破片資料がほとんどのため、浅鉢と断定できるものは少ない。入組文が施され、胴部が張り、口縁部が内傾もしくは内弯するとみられるもの（第７図７）がある。

［袖珍土器］

鉢が１点のみ出土している。弧線文・横位沈線が施され、胴部が外傾して立ち上がり、口縁部が内弯気味に直立するもの（第７図15）がある。

(2) 土器の年代

以上の土器の特徴から類例を探すと、角田市梁瀬浦遺跡（角田市教委1976）、気仙沼市田柄貝塚第Ⅲ群土器（宮城県教委1986）、仙台市王ノ壇遺跡Ⅱ・Ⅲ段階の土器（仙台市教委2000）などで見出すことができる。これらは、縄文時代後期中葉の「宝ヶ峯式」（伊東1957、志間・桑月1991）であり、今回出土した土器も宝ヶ峯式土器と考えられる。また、「宮戸Ⅱa・Ⅱb式」（後藤1957）と呼ばれる

ものに相当する。よって、今回の調査で出土した土器は、前回調査（丸森町教委1989）と同様に縄文時代後期中葉の年代となる。

(3) 土製品

土偶の脚部が１点のみ出土した（第７図16)。中実であり、その形態から右脚部と思われる。また、土錘が２点出土した。縦横に貫通孔を有するもの（第７図18)、溝が長軸・短軸を全周するもの（第７図17）がある。

(4) 石器

石鏃は２点出土した。いずれも有茎鏃（第５図２、第８図４）である。石箆は１点出土している（第８図１)。また、磨石（第８図３）が１点出土している。

３　まとめ

１　入大遺跡は、阿武隈山地から派生する丘陵の麓に立地している。

２　今調査で土坑１基、ピット２基、遺物包含層（SX01）を確認した。ピットや土坑の存在からⅢb・c層上面に生活面が存在し、集落の居住域がこの時期に拡大したとみられる。

３　遺物は、縄文時代後期中葉の宝ヶ峯式土器（深鉢・鉢・浅鉢・台部・壺・注口土器・袖珍土器）のほか、土製品（土偶・土錘)、石器（石鏃・石箆・磨石・剥片）が出土している。

４　SX01は４層（Ⅲa・b・c・d層）に分けられ、Ⅲa層が旧表土、Ⅲb層が一次堆積層であり、Ⅲc・Ⅲd層が流れ込みによる２次堆積層であると考えられる。また、このSX01は、過去の調査において確認した遺物包含層と一連であり、東側の末端部にあたる。

【引用・参考文献】

伊具郡教育会　1926 『伊具郡誌』

伊東信雄　1957 「古代史」『宮城県史』Ⅰ　宮城県史刊行会

角田市教育委員会　1976 『梁瀬浦遺跡』 角田市文化財調査報告書第１集

後藤勝彦　1956 「宮城県宮戸島里浜台囲貝塚出土の土器編年について」『宮城県の地理と歴史』１　地域社会研究会

1957 「陸前宮戸島里浜台囲貝塚出土の土器編年について」『塩釜市教育論文』２

斎藤良治　1956 「宮城県伊具郡丸森町耕野（旧耕野村）の考古学遺跡について」『宮城県の地理と歴史』１　地域社会研究会

志間泰治・桑月鮮　1991 『宝ヶ峯』 齋藤報恩会

仙台市教育委員会　2000 『王ノ壇遺跡』 仙台市文化財調査報告書第249集

丸森町教育委員会　1979 『丸森町の文化財』４

1989 『入大遺跡』 丸森町文化財調査報告書第８集

宮城県教育委員会　1986 『田柄貝塚』Ⅰ　遺構・土器　宮城県文化財調査報告書第111集

写　真　図　版

1　調査前風景①（南から）

2　調査前風景②（北から）

3　SX01 遺物包含層検出状況①（南から）　確認調査時

4　SX01 遺物包含層検出状況②（南から）　確認調査時

5　SX01 遺物包含層断面（東から）

6　SX01 遺物包含層完掘状況（南から）

図版１　調査前風景、SX01遺物包含層検出状況、完掘状況

1　SX01 遺物包含層検出状況①（南東から）　本発掘調査時

2　SX01 遺物包含層検出状況②（北東から）　本発掘調査時

図版２　SX01遺物包含層検出状況

1　本発掘調査区西壁断面（南東から）

2　SX01 遺物包含層東西断面（南から）

3　SX01 遺物包含層南北断面・拡大①（東から）

4　SX01 遺物包含層南北断面・拡大②（東から）

5　SX01 遺物包含層南北断面・拡大③（東から）

図版３　本発掘調査区西壁、SX01遺物包含層東西・南北断面

1　SX01 遺物包含層Ⅲb 層遺物出土状況①（北から）

2　SX01 遺物包含層Ⅲb 層遺物出土状況②（南から）

3　SX01 遺物包含層Ⅲc 層遺物出土状況①（東から）

4　SX01 遺物包含層Ⅲc 層遺物出土状況②（北から）

5　SK02 土坑（南東から）　Ⅲc 層上面で検出

6　P1 断面（南東から）　Ⅲc 層上面で検出

図版４　SX01遺物包含層遺物出土状況、SK02土坑、P1

1：SKO2　2～4：SX01Ⅲd 層　5～13：SX01Ⅲc 層　14～20：SX01Ⅲb 層

図版５　SK02土坑、SX01遺物包含層出土土器

1～2、13：SX01Ⅲb 層
3～7、10：SX01Ⅲa 層
8、11：SX01Ⅲ層
9、14～16：SX01Ⅲc 層
12：SK02

図版6　SK02土坑、SX01遺物包含層出土土器・土製品・石器

報　告　書　抄　録

ふりがな	いりだいいせき
書名	入大遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宮城県文化財調査報告書
シリーズ番号	第237集
編著者名	鈴木　啓司
編集機関	宮城県教育委員会
所在地	〒980-8432　宮城県仙台市青葉区本町３－８－１　電話　022－211－3685
発行年月日	2015年３月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
入大遺跡（いりだいいせき）	伊具郡（いぐぐん） 丸森町（まるもりまち） 耕野字入大（こうやあざいりだい） 地内（ちない）	04341	10056	37度 55分 10秒	140度 38分 45秒	確認調査 2014.03.11～03.13 本発掘調査 2014.07.14～08.08	確認調査 270㎡ 本発掘調査 159㎡	県道改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
入大遺跡	散布地	縄文時代後期中葉	土坑、ピット、遺物包含層	縄文土器、土製品、石器	

要約

入大遺跡は、伊具郡丸森町耕野字入大に所在し、阿武隈山地から派生する丘陵の麓に立地している。今回の調査で、縄文時代後期中葉の土坑、ピット、遺物包含層を確認した。

過去の調査では、今調査区西側の丘陵上に土器埋設遺構、土坑、遺物包含層を確認しており、今回確認した遺物包含層は、過去に確認したものと一連であり、東側の末端部にあたる。包含層は４層（Ⅲa・b・c・d層）に分けられ、Ⅲb層が一次堆積の本来の包含層であり、Ⅲa層が旧表土、Ⅲc・d層が流れ込みによる２次堆積層であると考えられる。また、土坑や小穴はⅢb・c層上面で検出しており、この時期に集落の居住域が拡大したものとみられる。

出土遺物は、縄文時代後期中葉の宝ヶ峯式土器（深鉢・深鉢突起・鉢・浅鉢・台部・壺・注口土器・袖珍土器）のほか、土製品（土偶脚部・土錘）、石器（石鏃・石篦・磨石・剥片）があり、他時期・他型式の土器を含まない。

宮城県文化財調査報告書第237集

入　大　遺　跡

平成27年３月15日印刷
平成27年３月20日発行

発　行　宮 城 県 教 育 委 員 会
仙台市青葉区本町三丁目８番１号
印　刷　株式会社　東北プリント